



同社が入る生まれ変わった九段会館テラス



瀟洒なオフィスで今日もアイデアが生まれる

Challenge 躍進企業 2023

(株)グリーン・シップ

東京都千代田区

受け手を笑顔にするオートコール 架電能力は一日一千万件

はじめ録音した音声で指定した電話番号リストに、一斉自動発信できるシステムだ。冷たい印象のオートコールだが、株式会社グリーン・シップの田中明子社長によれば、使い方次第で思いやりのこもった、温かみのあるコールに一変するという。

「肉声を録音したメッセージであれば、ご本人からいただいたような気分になり、受け手を笑顔にすることもできます。用途に応じて使い分けられるのが大事です」

同社が受託するシニアサービス会社では、加盟する

フランチャイズ店で初めて利用したお客様に、本部の社長の声でお礼の電話が届く。これがヒューマンな温かみを感じるということで大好評だ。

本人の声によるオートコールは総裁選、国政選挙はもちろん、地方選挙でも大活躍しているという。

同社は日本屈指の電話回線数を誇り、その気になれば一日に一千万件の架電が可能というから驚く。これを駆使しての、メディアからの依頼で実施する各種調査には定評がある。取得審査が厳格な01220で発信し、受け手側に安心感を与える配慮も忘れない。

商品・サービスの告知はもちろん、料金・家賃の滞納督促でも実績を積んでいる。合成音声によるガイダンスで本人確認後、収録日回答を受け付け、SMSで振込先と金額を知らせる。

債権回収は顧客情報の関係から、企業にプログラムごと提供。かける日時、呼び出し時間、リトライ回数とその間隔、回線数といった設定をパソコンで自らやってみよう。操作は至って簡単だ。

架電だけでなく受信も可能で、高齢者向けコロナワクチン接種の自動予約サービスも受託した。「電話がつかないクレームが激減して、多くの自治体から感謝されました。今後は避難指示の発信を提案してみたい」と田中社長は言う。

地域ごとの人流を捉え、競合相手やその影響度合いを割り出すロボット経営企画室など、同社のサービスは優れものが目白押しだ。

社会インフラとこのスタンダード構築へ

様々な要望に応え、その都度忠実に実現してきたの

が同社の歴史だった。若き日に、客室乗務員をめざして学んでいた田中社長。お客様ファーストの姿勢は昔も今も変わらない。

自分が諦めなかったら、できないことはない。社会人の第一歩を踏み出した（株）リクルートで学んだことだ。「受け手を笑顔にさせるオートコール普及に全力投球し、社会インフラのスタンダードモデルを目指します」田中社長は本気だ。（大）



田中 明子 社長

「会社データ」
本社 東京都千代田区九段南1-6-5 九段会館
テラス Classic Office4E
☎ 03-6896-7040
設立 2008年11月
事業内容 2 ロボットコールセンターによる各種サービス
<https://www.green-ship.co.jp>